



平成 22 年 6 月期 第 3 四半期決算短信（非連結）

平成 22 年 5 月 14 日

上場会社名 株式会社かんな丸 上場取引所 JASDAQ
 コード番号 7585 URL <http://www.kannanmaru.co.jp>
 代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）佐藤 栄治
 問合せ先責任者（役職名）管理部長（氏名）菊田 聡 TEL (048) 881 - 9056（代表）
 四半期報告書提出予定日 平成 22 年 5 月 14 日

（百万円未満切捨て）

1. 平成 22 年 6 月期第 3 四半期の業績（平成 21 年 7 月 1 日 ~ 平成 22 年 3 月 31 日）

(1) 経営成績（累計）

（%表示は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年6月期第3四半期	4,421	7.2	223	25.1	233	27.1	130	29.5
21年6月期第3四半期	4,765		298		320		184	

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
22年6月期第3四半期	30	15		
21年6月期第3四半期	42	73		

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
22年6月期第3四半期	4,421		3,921		88.7	909	30	
21年6月期	4,342		3,861		88.9	895	45	

（参考）自己資本 22年6月期第3四半期 3,921百万円 21年6月期 3,861百万円

2. 配当の状況

（基準日）	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年6月期	-	-	-	16 00	16 00
22年6月期	-	-	-	-	16 00
22年6月期（予想）	-	-	-	16 00	-

（注）配当予想の当四半期における修正の有無： 無

3. 平成 22 年 6 月期の業績予想（平成 21 年 7 月 1 日 ~ 平成 22 年 6 月 30 日）

（%表示は、対前期増減率）

通 期	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
	5,920	4.5	330	2.0	342	6.6	187	23.2	43	54

（注）業績予想数値の当四半期における修正の有無： 有

4. その他

- (1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
[(注) 詳細は、4 ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。]
- (2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの）
会計基準等の改正に伴う変更 : 無
以外の変更 : 無
- (3) 発行済株式数（普通株式）
- | | | |
|-------------------|-------------|------------|
| 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 22年6月期第3四半期 | 4,351,308株 |
| | 21年6月期 | 4,351,308株 |
| 期末自己株式数 | 22年6月期第3四半期 | 38,927株 |
| | 21年6月期 | 38,927株 |
| 期中平均株式数（四半期累計期間） | 22年6月期第3四半期 | 4,312,381株 |
| | 21年6月期第3四半期 | 4,312,570株 |

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期会計期間におけるわが国経済は、米国発の金融不安が世界的に波及し、実体経済の悪化を招いてきた状況からは脱するに至らず、むしろ長期化する円高とデフレ色を強める国内経済により、企業業績の一層の悪化が懸念される状況にあります。また、個人消費におきましても、政策的な下支えにより前年割れは回避しておりますが、自律的な回復を示すものとは言い難く、全般的に厳しい経済情勢のもと推移してまいりました。

外食産業におきましては、比較的安価な業態においては消費者の低価格志向を反映した一層の価格競争の激化と、その他の業態においては消費支出の選別強化を受けた客数の減少が顕著に表れており、全般的に減収傾向が継続する厳しい経営環境を強いられております。

こうした状況の下、当社は、当第3四半期会計期間において「庄や」1店舗、「日本海庄や」1店舗を開店いたしました。

この結果、当第3四半期会計期間の店舗数は、大衆割烹「庄や」38店舗、「日本海庄や」34店舗、無国籍料理「KUSHI949KYU」1店舗、カラオケスタジオ「うたうんだ村」6店舗、旬菜・炭焼「炉辺」2店舗、気楽な安らぎ処「やるき茶屋」3店舗、コーヒー専門店「ドートルコーヒーショップ」1店舗の合計85店舗となっております。

当第3四半期会計期間も既存店の活性化を図り、地域一番店を目指す方針に基づき、人材の発掘・登用を積極的に行い、また「わざわざご来店いただいたお客様」に感謝するためのきめ細かい施策を継続して実施してまいりました。

以上により、当第3四半期会計期間の業績は売上高1,420百万円（前年同四半期比3.8%減）、売上総利益1,013百万円（前年同四半期比3.5%減）、販売費及び一般管理費については969百万円（前年同四半期比3.5%減）となり、営業利益は43百万円（前年同四半期比2.9%減）となりました。

経常利益につきましては52百万円（前年同四半期比0.8%減）となり、税引前四半期純利益は53百万円（前年同四半期比3.1%減）、四半期純利益は29百万円（前年同四半期比27.8%減）となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

当第3四半期会計期間末における資産の状況は、現金預金を主とした流動資産の増加72百万円、新規出店に伴う保証金等の増加等による固定資産の増加5百万円により、総資産4,421百万円（対前事業年度末比78百万円増）となりました。

負債は、1年内返済予定の長期借入金及び長期借入金の増加等により、499百万円（対前事業年度末比18百万円増）となりました。

純資産は、四半期純利益の計上により3,921百万円（対前事業年度末比59百万円増）となりました。

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、第2四半期会計期間末に比べ101百万円減少し、1,343百万円となりました。

当第3四半期会計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期会計期間において営業活動の結果使用した資金は21百万円（前年同四半期比33.3%減）となりました。

収入の主な内訳は、税引前四半期純利益53百万円、減価償却費74百万円等であり、支出の主な内訳は、仕入債務の減少額46百万円、法人税等の支払額87百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期会計期間において投資活動の結果使用した資金は65百万円（前年同四半期は21百万の収入）となりました。

支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出44百万円、定期預金の預入による支出16百万円、保証金の差入による支出13百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期会計期間において財務活動の結果使用した資金は14百万円（前年同四半期比33.6%増）となりました。

支出の主な内訳は、長期借入金の返済による支出14百万円であります。

3. 業績予想に関する定性的情報

世界的に進行する金融不安による実体経済の低迷が継続するなか、内需関連業種たる外食産業におきましても、物価の下落傾向及び個人消費の低迷を反映し、価格競争が激化する状況のもと、業界全体としての収益力低下が顕著になってきております。

このような事業環境の下、当第3四半期累計期間における既存店売上高が前年比9.3%減と低調に推移し、加えて利益面におきましても、売上高の減少を要因とした収益の悪化につき、コスト削減等による費用の圧縮による吸収が困難な状況となり、当初予想を下回る見通しとなりました。

引き続き、厳しい事業環境が続くものと想定されますが、来期を見据え、第4四半期会計期間におきましては、相対的にリスクの低い業態への新規出店及び売上高向上寄与に実績のある既存店舗のリニューアルを中心とした設備投資を当初計画通り進めてまいります。

以上により、売上高につきましては、前回予想の6,222百万円を301百万円下回り、5,920百万円に、営業利益につきましては、前回予想468百万円のところ330百万円となる見通しであります。

また、営業利益の下振れに伴い、経常利益につきましては前回予想496百万円のところ342百万円に、当期純利益につきましては前回予想265百万円のところ187百万円となる見通しであります。

（注）業績予想の修正及び業績見通しにつきましては、現段階の入手可能な情報に基づいて判断いたしておりますが、実際の業績は様々な要因により上記の予想数値と異なる結果となる可能性があります。

4. その他

（1）簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

（固定資産の減価償却費の算定方法）

減価償却の方法として定率法を採用している資産については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。

（法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法）

繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前事業年度末以降に経営環境等、または、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前事業年度において使用した将来の業績予測やタックスプランニングを利用しております。

（2）四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成22年3月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,382,002	1,327,740
売掛金	37,709	31,736
商品	99	125
原材料	37,126	33,297
その他	117,029	108,475
貸倒引当金	49	38
流動資産合計	1,573,917	1,501,335
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,529,561	1,562,226
その他（純額）	332,476	333,793
有形固定資産合計	1,862,037	1,896,020
無形固定資産		
	14,931	15,420
投資その他の資産		
敷金及び保証金	805,319	781,650
その他	257,611	244,432
貸倒引当金	92,732	95,884
投資その他の資産合計	970,197	930,198
固定資産合計	2,847,167	2,841,639
資産合計	4,421,085	4,342,974
負債の部		
流動負債		
買掛金	143,894	122,497
1年内返済予定の長期借入金	34,181	18,061
未払法人税等	18,158	88,977
賞与引当金	11,012	3,017
その他	235,422	248,917
流動負債合計	442,668	481,471
固定負債		
長期借入金	53,054	-
長期前受収益	4,103	-
固定負債合計	57,157	-
負債合計	499,825	481,471

（単位：千円）

	当第3四半期会計期間末 (平成22年3月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	275,100	275,100
資本剰余金	88,500	88,500
利益剰余金	3,591,504	3,530,477
自己株式	35,018	35,018
株主資本合計	3,920,086	3,859,059
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,173	2,444
評価・換算差額等合計	1,173	2,444
純資産合計	3,921,259	3,861,503
負債純資産合計	4,421,085	4,342,974

（2）四半期損益計算書
（第3四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期累計期間 (自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)
売上高	4,765,571	4,421,410
売上原価	1,416,325	1,287,046
売上総利益	3,349,246	3,134,364
販売費及び一般管理費	3,050,967	2,911,024
営業利益	298,278	223,339
営業外収益		
受取利息	1,855	618
協賛金収入	18,549	11,731
その他	3,444	2,548
営業外収益合計	23,849	14,899
営業外費用		
支払利息	395	544
貸倒引当金繰入額	-	3,432
その他	822	387
営業外費用合計	1,217	4,364
経常利益	320,909	233,874
特別利益		
前期損益修正益	2,238	-
受取補償金	45,024	-
貸倒引当金戻入額	792	-
特別利益合計	48,054	-
特別損失		
固定資産除却損	11,868	-
貸倒損失	-	2,075
特別損失合計	11,868	2,075
税引前四半期純利益	357,096	231,798
法人税、住民税及び事業税	150,585	99,390
法人税等調整額	22,188	2,383
法人税等合計	172,774	101,773
四半期純利益	184,321	130,025

（第3四半期会計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期会計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期会計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)
売上高	1,476,874	1,420,623
売上原価	427,006	407,097
売上総利益	1,049,867	1,013,526
販売費及び一般管理費	1,004,935	969,894
営業利益	44,932	43,632
営業外収益		
受取利息	751	291
協賛金収入	6,339	7,797
その他	1,022	653
営業外収益合計	8,113	8,742
営業外費用		
支払利息	124	268
貸倒引当金繰入額	-	-
その他	413	-
営業外費用合計	537	268
経常利益	52,509	52,105
特別利益		
前期損益修正益	209	-
貸倒引当金戻入額	2,702	1,429
その他	-	85
特別利益合計	2,912	1,515
特別損失		
固定資産除却損	87	-
特別損失合計	87	-
税引前四半期純利益	55,333	53,621
法人税、住民税及び事業税	19,232	25,983
法人税等調整額	4,293	1,515
法人税等合計	14,938	24,467
四半期純利益	40,394	29,153

（3）四半期キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第3四半期累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成22年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	357,096	231,798
減価償却費	234,986	217,081
貸倒引当金の増減額（は減少）	792	3,140
賞与引当金の増減額（は減少）	11,148	7,994
受取利息及び受取配当金	2,400	1,111
支払利息	395	544
有形固定資産除却損	11,868	-
売上債権の増減額（は増加）	852	5,973
たな卸資産の増減額（は増加）	5,172	3,802
仕入債務の増減額（は減少）	6,950	21,397
その他	25,743	11,363
小計	599,534	453,424
利息及び配当金の受取額	2,400	1,111
利息の支払額	388	602
法人税等の支払額	136,744	169,938
営業活動によるキャッシュ・フロー	464,801	283,994
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	49,220	48,621
定期預金の払戻による収入	78,012	45,000
有形固定資産の取得による支出	126,976	182,610
敷金及び保証金の差入による支出	4,220	36,160
敷金及び保証金の回収による収入	7,638	-
その他	2,733	4,442
投資活動によるキャッシュ・フロー	92,032	226,833
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	7,498	4,996
長期借入れによる収入	-	100,000
長期借入金の返済による支出	32,094	30,826
自己株式の取得による支出	2,172	-
配当金の支払額	82,043	68,898
財務活動によるキャッシュ・フロー	108,812	4,720
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	263,957	52,440
現金及び現金同等物の期首残高	927,452	1,291,410
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,191,409	1,343,851

（4）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（5）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6．その他の情報